

社会人のための  
夜間大学院

GUIDE BOOK 2022

GRADUATE SCHOOL OF HEALTH SCIENCES  
OSAKA HEALTH SCIENCES UNIVERSITY

「専門実践教育訓練  
給付金」指定講座

## 大阪保健医療大学大学院 保健医療学研究所

# 脳神経疾患身体障害支援学領域

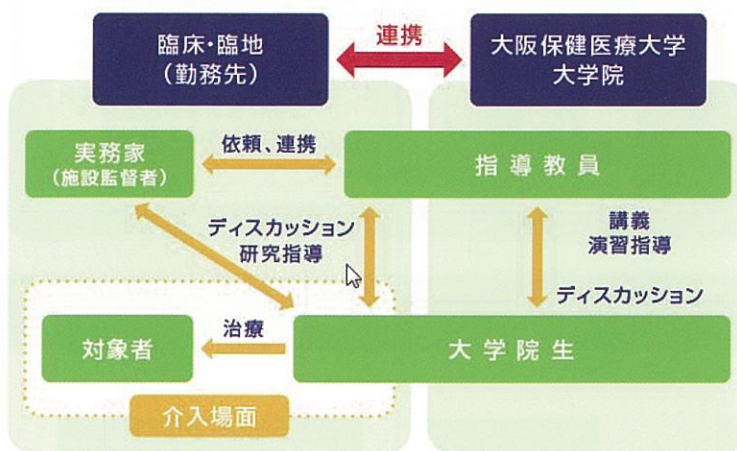
リハビリの最先端と介入技術を学び、障がいを改善に導く真の支援者に

脳卒中や神経変性疾患などで身体機能の障がいを持つ方が、より良い生活を実現するために、障がいを改善に導く高度で専門的な保健医療を提供する知識・技能の修得を目指します。リハビリテーションに関する最新の知識をはじめ、的確な介入が実践できるスキルの獲得、脳機能解剖や脳刺激法を取り入れた介入技術の開発などの教育研究を通じ、日常生活活動の支援方法を確立します。高度専門職（理学療法士、作業療法士など）の育成が目的です。

脳神経疾患身体障害支援学領域

## 課題研究の概要

本領域は、文部科学省BPIに認定されています



BPプログラム「課題研究」イメージ図

BP（職業実践力育成プログラム）とは、社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会を拡大を目的として、大学等で実施され文部科学大臣が認定した社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムです。

本領域のBPの特徴は、臨床施設と密接に連携し、修了生が培った知識・技術・技能および研究成果を臨床現場に還元できるような教育課程を設定していることです。大学院生は、3症例以上の症例研究を行う「課題研究」と研究テーマに沿った研究を行う「修士論文」のどちらかの研究方法を選択できます。

「課題研究」においては、大学院生の臨地活動から課題となるテーマを抽出し、大学院生が勤務施設で担当する対象者の症例研究を行います。その研究指導にあたっては、キャンパス内での講義と演習指導にとどまらず、大学院生の臨床・臨地現場に指導教員が赴いて、対象者の状態や大学院生の介入場面を把握し、その場面で直接、助言と指導を行います。また、各施設のリハビリテーション部門で指導の立場にある実務家と連携し、指導教員と共に学生指導を行います。

「修士論文」においても、研究を実施する施設と連携し、研究テーマの臨床的意義、各施設の特徴を活かした具体的な実験手順の作成、対象者の安全性等について、指導教員が研究協力施設実務家と共に学生指導を行います。

### 課題研究テーマ

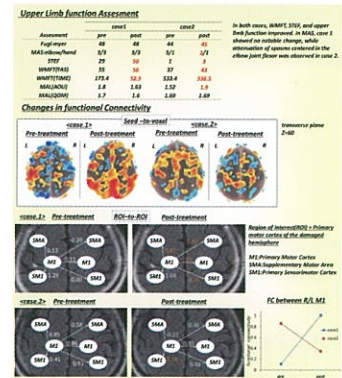
- 多系統萎縮症の臨床症状における神経科学的根拠の追究
- 脳卒中患者の食事動作における神経機能解剖学的分析
- 身体図式障害の障害像を明確にし、その治療法を検討する
- 運動学習障害を脳機能解剖学的に分析して、それに基づく治療方法を検討する
- 脳卒中による衝動性制御障害の脳機能解剖学的分析に基づく評価方法と機序の検討

### 修士論文テーマ

- 慢性期脳卒中上肢短期集中作業療法によるFunctional connectivityの変化-安静時functional MRIを用いた研究
- NNWを用いた脳神経疾患のADL予後予測
- 小児理学療法介入の効果判定

### 修士論文例

Changes in functional connectivity due to repeated transcranial magnetic stimulation and botulinum toxin treatment  
-Discussion on two cases with different functional connectivity changes-



## 指導教員 (脳神経疾患身体障害支援学領域)



教授 藪中 良彦

- 研究テーマ
- ・ 脳性麻痺児の独歩獲得に影響する因子の同定
- ・ 小児理学療法介入の効果判定



教授 石倉 隆

- 研究テーマ
- ・ 脳機能解剖学的分析に基づく症例研究
- ・ tDCSの臨床応用
- ・ NNWを用いた脳神経疾患のADL予後予測



講師 岩田 篤

- 研究テーマ
- ・ 脳機能解剖学的分析に基づく症例研究
- ・ tDCSの臨床応用